

令和8年度当初予算案

令和7年度2月補正予算案 (国補正予算分)

教育委員会所管分

- ・ 京都府総合計画～あたたかい京都づくり～
- ・ 第2期京都府教育振興プラン～教育環境日本一を目指して～
を踏まえた施策を展開

予算案の規模

<教育委員会所管分>

令和7年度2月補正予算案

(国経済対策) 1,859百万円

令和8年度当初予算案

148,080百万円

合計(14か月予算)

149,939百万円

対前年度比 10,921百万円
(108.0%)

(単位:百万円)

	8年度 (7・2補含)	7年度 (6・2補含)	増減	前年比	主な増減要因
予算総額	149,939	139,018	10,921	108.0%	
人件費	117,613	109,190	8,423	107.7%	教職員給与費の増 退職手当の増
事業費	32,326	29,828	2,498	108.4%	学校給食費負担軽減事業費の増 公立学校情報機器整備事業費の減
うち、 普通建設事業費	11,983	10,790	1,193	111.1%	向日が丘支援学校整備費の増

子育て環境日本一・京都の実現

- 1 豊かな学びの創造と確かな学力の育成
- 2 豊かな人間性の育成と多様性の尊重
- 3 健やかな身体育成
- 4 学びを支える教育環境の整備
- 5 学校・家庭・地域の連携・協働と社会教育の推進

文化の力で世界に貢献する京都の実現

- 6 文化財の保存・継承・活用

① 豊かな学びの創造と確かな学力の育成

未来を担う高校生育成プロジェクト

主要事項 1 ページ

～未来を担う高校生育成プロジェクト～

確かな学力や専門性を基に、京都に根ざし新たな価値を創出する、「これからの京都、日本の未来を担う人材」の育成を目指す。

新 高校生発案型クリエイティブハイスクール創造事業

全国初！

予算額
57百万円

生徒主導で企画・立案した学びの魅力創造に繋がる取組を支援

対 象：全府立高校（分校・学舎含む）

活動費：上限100万円（企画提案書の内容に応じて決定）



新 英会話どこでもレッスン事業

都道府県初

予算額
52百万円

全府立高校の1年生を対象に生成AI英語アプリを導入

（主な機能）

リスニング強化、課題の自動生成、即時フィードバック、習熟度別の問題作成 等



未来を担う高校生育成プロジェクト

主要事項 1 ページ

新「高校生のための京都学」講座の開設

予算額
1百万円

R 9 開設

京都のほんまものの価値を学ぶ「京都学」講座の開設準備

<講座の概要>

対 象：普通科（全校実施）

教科等：総合的な探究の時間（必履修3単位の内、1単位を充てる）

講座例：京都の歴史や文化に関する講演、史跡の探究 等



R 8 は府内 5 校程度で
試行実施!!

新 府立高校「未来の教室」事業

予算額
240百万円

2 月補正

全府立高校に3年で整備

府立高校の普通教室にインタラクティブ型の電子黒板を整備

<活用イメージ>

複数校による合同授業、大学の講義への参加、企業講演の配信等



高校生の海外留学支援

(海外探Q) 主要事項 2ページ

(語学留学) 主要事項 6ページ

新 京の高校生「海外探Q留学」 応援事業

予算額
50百万円

全国トップ
府市連携

語学力・成績不問の産学公連携による海外探究留学支援制度を創設

※国の「トビタテ！留学JAPAN」制度の地方版

対象者	府内すべての高校生等 (府立・市立・私立・特別支援学校高等部・高等専門学校・専修学校高等課程)
コース ・ 支援人数 (予定)	京の高校生探究コース(80名) ＜探究分野＞文化・歴史・観光／環境・自然／産業・メディア／健康・安全など 全国共通コース(20名) ＜探究分野＞社会探究・STEAM探究・スポーツ・芸術探究・マイ好奇心探究
支援金額	270千円～830千円 ※留学地域・期間や家計の所得状況によって変動



府立高校生海外留学支援

予算額
22百万円

語学力向上に向け英語を公用語とする国への短期・中期留学費用を支援
(エディンバラ(英)、アデレード(豪)等)

京の高校生探究パートナーシップ事業

主要事項 5 ページ

～京の高校生探究パートナーシップ事業～

予算額 7百万円

府立・京都市立高校の生徒達が交流し学びを深めていくことで、未来を切り拓く人材の育成に繋げていくことを目指す。

府市連携

「京都探究エキスポ」の開催

府立・市立高校等が一堂に会し、学びの成果を発表する京都探究エキスポを開催
(R7：参加校55校・参加者約1,300人)

＜国立京都国際会館での発表の様子＞



「京都探究クエスト」の開催

京都が世界に誇る歴史的建造物等の文化財を舞台に、世界を見つめ、自分を深く問いなおす交流会を開催

(R7) 1日目：北部・智恩寺（天橋立）、南部・西芳寺

2日目：清水寺

＜天橋立で探究する様子＞



「学び・繋がる未来の扉」京都プロジェクト

主要事項 6 ページ

～「学び・繋がる未来の扉」京都プロジェクト～

経済的条件・地域条件に関わらず全ての子どもたちの夢を応援し、国際的に活躍したり、地域社会の発展に貢献する人材へと育ててもらうための教育環境をつくるプロジェクト

府市連携

「学びのWEBラボ」の活用

予算額
1.5百万円

大学・企業と連携し、異なる学校の生徒が
地理的制約を越えオンライン等で学び合う
場を構築

(取組例:気象・ロボット・プログラミング・宇宙等)

＜交流会の様子＞



＜プログラミング＞



R 8から京都市立高校とも連携!!

府立学校どこでもスペシャル講座の開催

予算額
1.5百万円

他校の特別講義や大学連携講義等をオンラインで受講できる機会を創出

＜主な開催実績＞

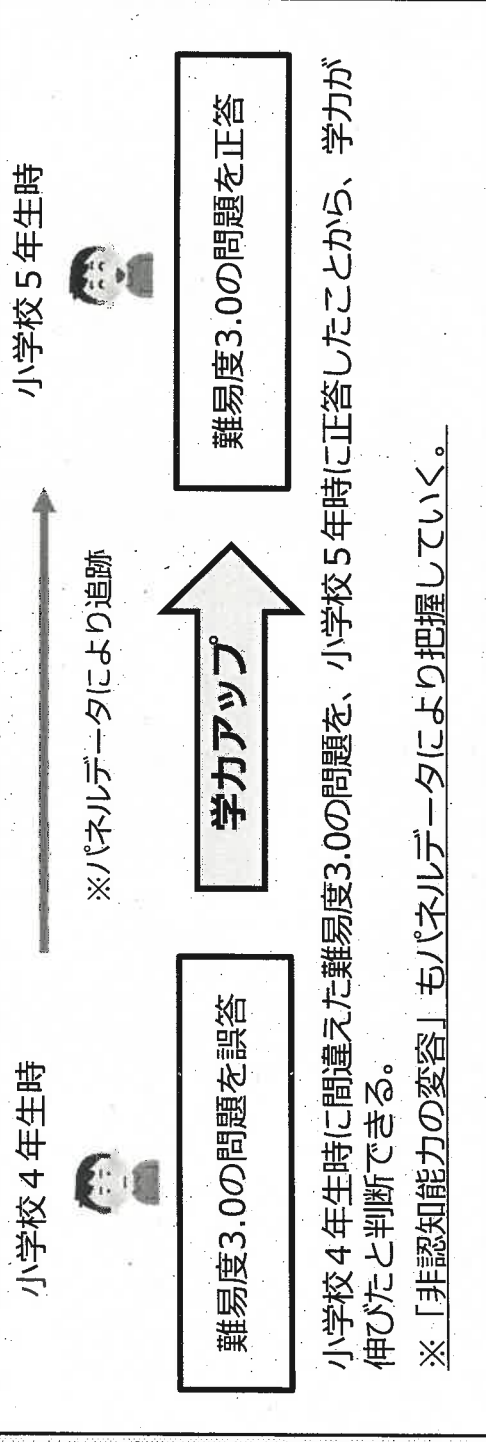
	配信校	実施内容	参加校
R 6	洛北高校	二次方程式の不思議	山城高校ほか4校
R 7	南陽高校	ゴリラの学び 人間の学び	西城陽高校

京都府学力・学習状況調査（学びのパスポート）の実施

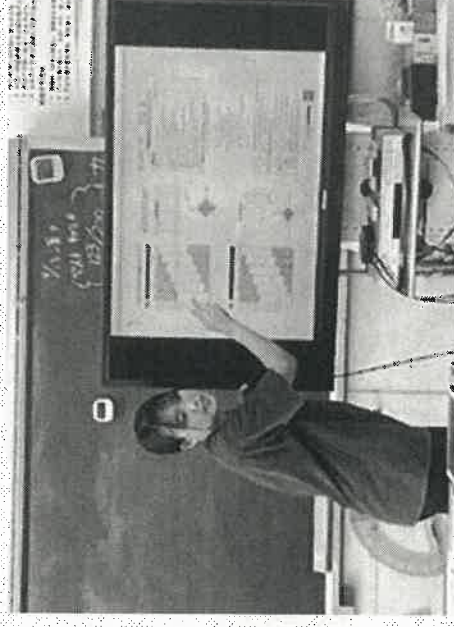
予算額
46百万円

令和5年度から本格実施した学びのパスポートを活用し、児童生徒の学力向上や非認知能力の変容に繋げる教育システムを展開

「学力の伸び」の把握方法



＜担任からデータの見方を説明＞



【参考：学びのパスポート】※全国初

小4～中3を対象に全員CBTで実施するとともに、学力の伸びが把握可能なIRT手法を組み合わせた調査

※CBT:コンピュータやタブレットを用いて行う調査方式

※IRT:問題や受験者が異なる場合であっても、問題の難易度をものさしとして調査結果を比較可能にする理論（英検等で活用）

※パネルデータ：児童生徒1人1人の変化を継続的に把握する手法

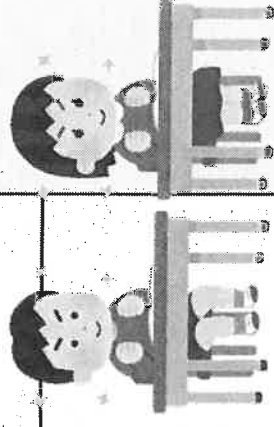
拡 子どもの教育のための総合交付金による教育環境の充実

予算額
300百万円

府と市町村が一体となって「教育環境日本一」に向けた取組を進めるため、
地域の実情に応じた特色ある取組を支援

R8から優先採択枠を設定
(府重点施策と連動した取組)

対象者	市町村、広域連合及び中学校組合
補助率	原則 1 / 2
区分	市町村特色枠、重点支援枠（リーディング事業）
取組事業例	○聞く力・話す力を身に着けるこれからの英語教育 ○企業や地域社会等と連携した探究的な学び ○インクルーシブの視点を活かした特別支援教育 ○教育と福祉の連携による家庭教育支援体制の構築 等



② 豊かな人間性の育成と多様性の尊重

特別支援教育の推進

(向日が丘) 主要事項 26-1ページ

(児童生徒増) 主要事項 26ページ

向日が丘支援学校の整備推進

予算額
6,675百万円

教育と福祉の総合的な連携による、切れ目ない支援の充実に向けた校舎整備

スケジュール (予定)	支援学校
R 6 年度	解体工事、埋文調査、建設工事
<u>R 7 ～ 8 年度</u>	<u>建設工事</u>
R 9 年度	供用開始（仮校舎から移転）

特別支援学校の児童生徒増対応

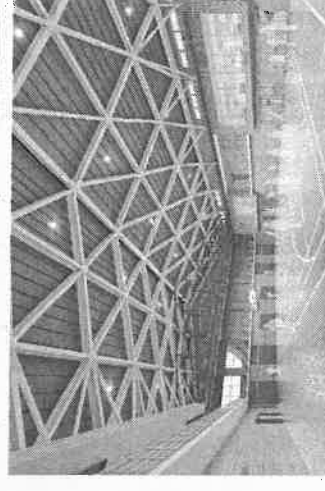
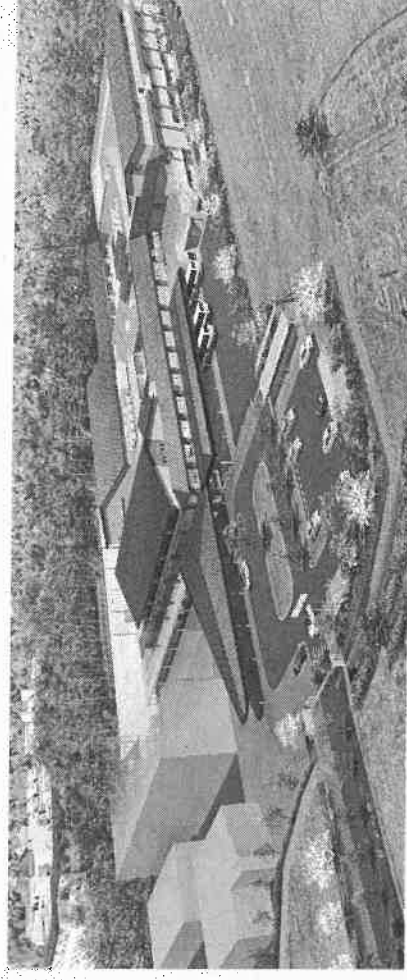
予算額
13百万円

児童生徒が急増している特別支援学校の教育環境（普通教室）の確保

※実施校：中丹支援学校

令和 9 年 9 月に新校舎へ移転

<完成イメージ>



いじめ防止・不登校支援等

小・中・高等学校における不登校及び長期欠席の児童生徒数は全国的に増加

(R6 <小・中>) 全国：506,970人 (R5+13,530人)、府：9,056人 (R5 +423人)

スクールカウンセラー等の配置

予算額
349百万円

スクールカウンセラーや、まなび・生活アドバイザー
(スクール・ソーシャル・ワーカー) 等を学校へ配置

心の居場所サポーターの配置

予算額
67百万円

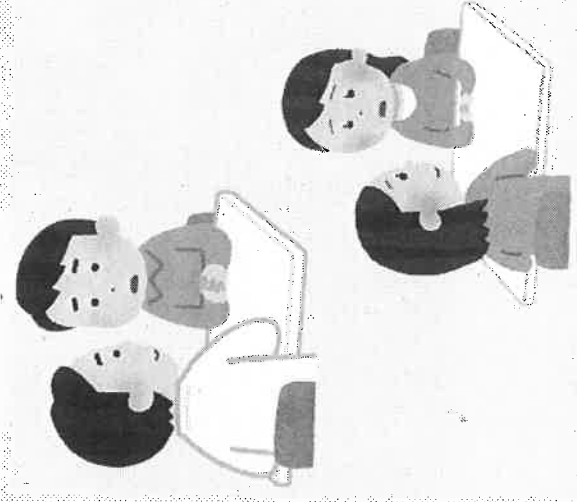
児童生徒への別室（相談室等）での学習支援や相談を実施
(教員や臨床心理士を志望する大学生等を任用)

不登校児童生徒へのアウトリーチ支援

予算額
19百万円

市町村の教育支援センターにスクールカウンセラー等を配置し、学校内外を問わない個々の状況に応じた支援を実施

全ての学校に配置



令和の京都市教育指導体制の推進

(教科担任) 主要事項 10-2ページ

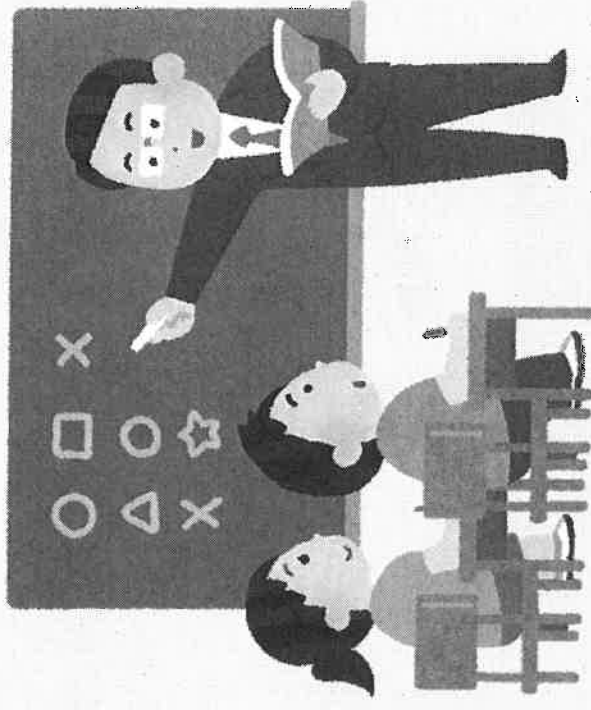
(少人数) 主要事項 10-1ページ

拡 小学校教科担任制の推進

予算額
760百万円

予測困難な社会を生き抜く力として重要な外国語や理系教育の指導体制を強化するため、理科及び英語を中心とした専科教員を拡充

【R8：115名程度（前年度比＋5名）】



京都市式少人数教育の推進

予算額
3,766百万円

児童生徒や学校の実態に即して、児童生徒の確かな学力を定着させる「京都市式少人数教育」を引き続き実施

～京都市式少人数教育～

- (小学校) 1・2年生 2人の教員による指導が実施可能な教員を配置
- 3～6年生 30人程度の学級編制が可能な教員を配置

※市町村や学校が少人数授業、ティームティーグ又は少人数学級を選択

(中学校) 35人を超える学級規模の解消又は習熟度別授業が充実できる教員を配置

③ 健やかな身体の育成

スポーツに親しむことができる環境づくり

少子化が進む中でも将来にわたり子ども達が望むスポーツに親しむことができる機会を確保するとともに、幼少期における基礎運動能力の向上を図る

拡 地域部活動の推進

予算額
39百万円

R 8 から平日の地域展開を
支援対象に拡充

部活動の地域展開に向けた市町の準備経費を支援

【R 8 : 1 2 市町程度 (R 7 : 9 市町)】



部活動指導員の配置

予算額
35百万円

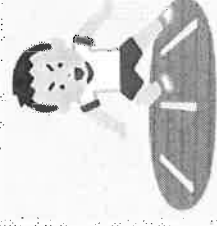
専門的指導員の配置により、部活動環境の充実と教員の負担軽減を図る

新 京のアスたまプロジェクト

予算額
2.5百万円

府内全域において、幼少期からの基礎運動能力向上を図るプログラムを実施

対 象 : 年長及び小学校 1 ～ 3 年生までの幼児・児童
規 模 : 1,500 人程度 (1 学年 60 人程度 × 2 5 校 (園))



学校給食費の抜本的な負担軽減

物価高騰が続く中、子育て世帯への支援を強化する観点から、小学校段階における「学校給食費の抜本的な負担軽減」を国が決定

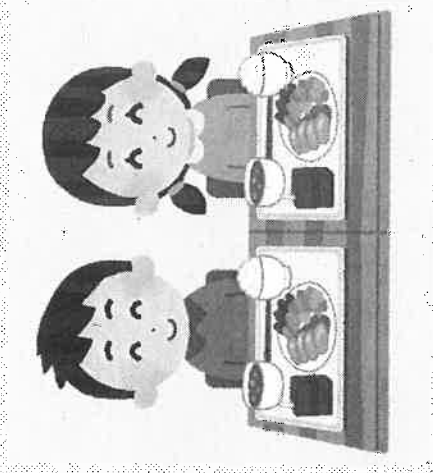
新 学校給食費負担軽減支援事業

予算額

6,306百万円

支援対象：給食を実施する公立小学校等 ※府内375校 約11万人
(義務教育学校前期課程・特別支援学校小学校部含む)

支援基準額：小学校・義務教育学校前期課程 5,200円/月
特別支援学校小学校部 6,200円/月



④ 学びを支える教育環境の整備

教育環境の整備

主要事項 26ページ

児童生徒が授業や部活動等に安心して取り組める教育環境の確保に向け、空調設備の整備とトイレの洋式化を計画的に実施

5年で
全校完了

新 特別教室の空調整備とトイレの洋式化

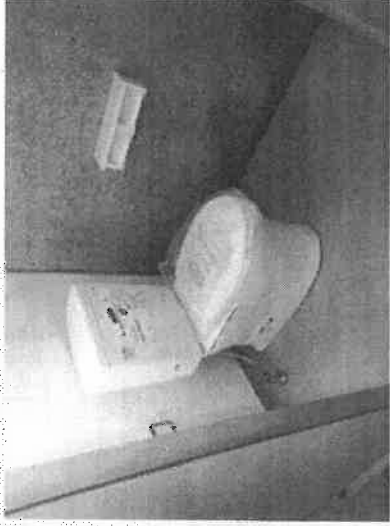
予算額
669百万円

2月補正

＜特別教室空調＞



＜トイレ洋式化＞



生徒の選択により
整備効果を実感！！

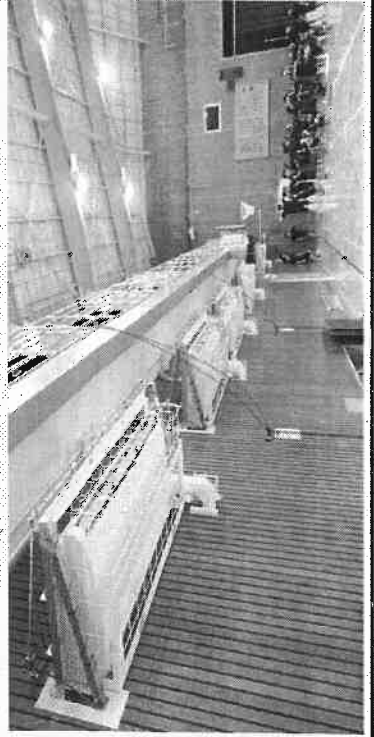
生徒のニーズを踏まえ、
優先順位を付けた整備を実施

新 体育館空調の整備

予算額
211百万円

2月補正

＜体育館空調＞



熱中症リスクから
早期の安全を確保！！

設計・施工を一括発注するデザ
インビルド方式等により、工期
の短縮を実現

学校における働き方改革と教員の人材確保

(初任者) 主要事項 24ページ

(支援員) 主要事項 24ページ

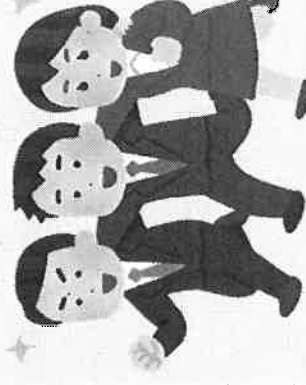
(奨学金) 主要事項 23ページ

初任者（教員）への支援

予算額
456百万円

初任者の業務負担軽減及び育成のために非常勤講師を配置し、教育の質の向上を図る

(担任業務、授業準備、校務分掌、生徒指導等)



教員業務支援員の配置

予算額
260百万円

教員業務支援員を配置し、教員が教材研究等に注力できる環境を確保

教員を目指す大学生等を積極的に採用し、人材確保にも繋げる

<支援事例>

学校行事や式典準備、学習プリントや家庭への配布物の印刷 等

教職志願者向け奨学金支援制度

予算額
3百万円

北部地域における教員不足を解消するため、日本学生支援機構の奨学金の返還金を一部補助

※北部：中丹以北の地域

対象者	北部採用枠で合格した新卒採用者
支援内容	卒業前2年間の第一種奨学金貸与額を上限とし、10年間に分けて補助



奨学金

⑤ 学校・家庭・地域の連携・協働と社会教育の推進

～あんしん「子育て一教育」京都プロジェクト～

市町村と連携し、産前から成人までの子を持つ親の「子育てから教育」の悩みに寄り添い、解決に導くなど、安心して子育てができる環境づくりに取り組むプロジェクト

「子育て一教育コンシェルジュ」の設置

予算額
7百万円

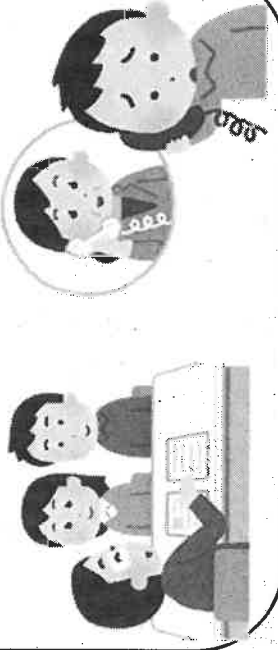
電話相談は24時間365日対応

保護者の不安や悩みに寄り添い、解決に導くための「子育て一教育コンシェルジュ」を設置し、子育て・教育相談の体制を構築

トータルアドバイザーセンター

○子育て世代の教育相談を実施

- ・電話・メール相談
- ・来所・巡回相談



連携

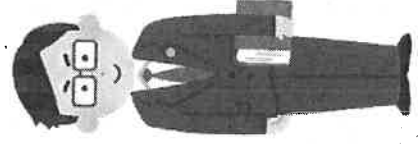
専門家チーム

○トータルアドバイザーと連携して相談内容の解決に向けた専門的支援

○府立学校や市町村教育委員会からの困難事案に係る相談対応

【チーム構成】

- ・学校問題解決支援コーディネーター（教員OB等）
- ・スクールロイヤー（法律専門家）



⑥ 文化財の保存・継承・活用

丹後郷土資料館のリニューアル整備

予算額
762百万円

丹後地域の歴史・文化の探訪と観光の拠点施設となるハブ・ミュージアムを目指し、リニューアルを実施

<外観イメージ（東南側）>

～丹後郷土資料館リニューアルの概要～

整備のコンセプト

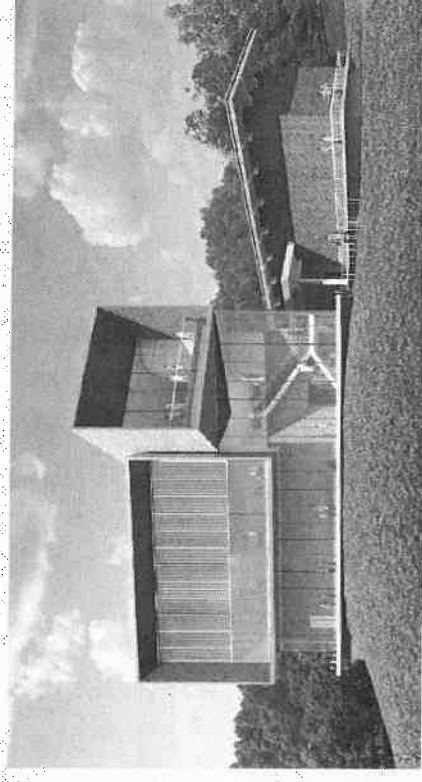
地域に受け継がれた「丹後の歴史」と「未来」との融合

ポイント

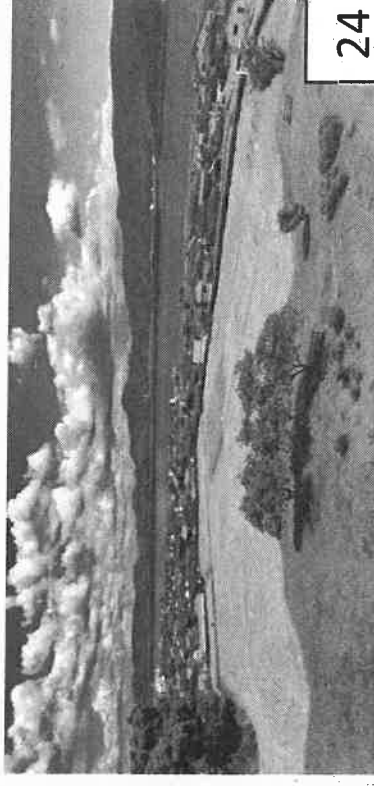
- ①歴史と重厚感ある「本館」は存置しリノベーション
- ②公開承認施設への対応など新たな機能と、天橋立を望む空間を備えた「新館」を建築

スケジュール（予定）

令和7年度：収蔵庫新設・本館改修・新館新設工事
令和8年度：本館改修・新館新設工事



<新館から望む天橋立>



文化財の保存・活用

(恭仁宮) 主要事項 31ページ

(国宝) 主要事項 34-1ページ

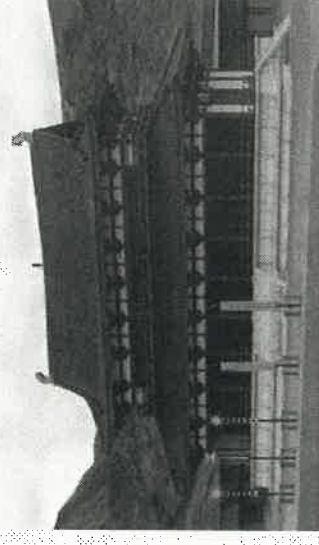
(理解促進) 主要事項 32ページ

「恭仁宮」跡の文化観光拠点化

予算額
12百万円

昨年末、文化審議会から「特別史跡」に指定する旨の答申を受けた恭仁宮跡について、文化財の活用・整備に関する基本構想の策定と文化・観光拠点の実現に向けたイベントを開催

＜当時の恭仁宮大極殿の再現CG＞



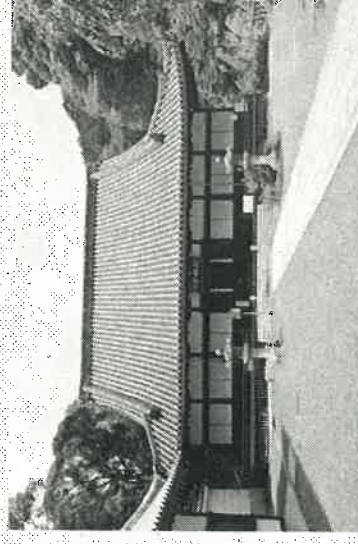
国宝・重要文化財建造物等の保存修理

予算額
1,169百万円

社寺等所有者からの委託により、府教育委員会が国宝・重文建造物の保存修理工事等を実施

※妙法院、知恩院 他13箇所

＜重要文化財 知恩院勢至堂＞



文化財建造物の理解促進

予算額
9百万円

国宝・重文建造物の修理現場を対象とした見学会の実施

